

Vol.75

Vol.75 (2018年夏号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Columun / 新任理事ごあいさつ	3
Best Practice and Competence / PM事例・知識	4
Stakeholders / 法人スポンサー紹介	11
Activities / 支部活動	13
PM Calendar / PMカレンダー	19
Fact Database / データベース	20
Editor's Note / 編集後記	24



Column / 組織

- ◆新任理事ごあいさつ 3
PMI日本支部 理事 岩岡 泰夫

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆【部会紹介シリーズ】 その11 『リスク・マネジメント研究会』 4
リスク・マネジメント研究会 広報担当 足立 康子
- ◆【部会紹介シリーズ】 その12 『PMツール研究会』 7
PMツール研究会 代表 野村 和哉
- ◆【部会紹介シリーズ】 その13 『アジャイル プロジェクト マネジメント研究会』 9
アジャイル プロジェクト マネジメント研究会 代表 渡会 健

- Stakeholders / 法人スポンサー紹介 11
• 株式会社インテージテクノスフィア

- Activities / 支部活動 13
• 日本支部創立20周年記念セミナー概要報告
PMI日本支部 理事 森田 公至
- PMI日本フォーラム2018のご案内

- PM Calendar / PMカレンダー 19
• PMI日本支部関連セミナー等

- Fact Database / データベース 20

- Editor's Note / 編集後記 24

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Column / 新任理事ごあいさつ



ミッション委員会

岩岡 泰夫 (いわおか やすお)

株式会社国際開発センター
株式会社日進サイエンティア

初めまして、新任理事の岩岡泰夫と申します。まず自己紹介をさせていただきます。長らく電機会社に勤めた後、現在は株式会社国際開発センター及び中堅のソフトウェア会社に所属しております。後者ではプロジェクトベースの業務が中心でプロジェクトマネジメントに日々接しております。

これまでPMIの活動に直接かかわった経験はありませんが、40数年のソフトウェア開発現場経験、ソフトウェア関係団体の運営経験等を生かし、少し大げさに言えばPMI日本支部の事業発展を通して日本の産業競争力の強化に少しでもかかわることが出来たらと考えております。

今回、ミッション委員会を担当させて頂くことになりました。ミッション委員会はPMI日本支部の中期計画を立案し、その実現に向けて施策の具体的検討、行動計画の策定等を

行っています。中期計画のテーマはPPPMの普及推進、グローバル対応、他団体との連携強化、PM適用分野の拡大、首都圏以外での活動拡大、PMを通じた社会貢献の展開、支部活動基盤の整備、アクティブメンバーへの支援強化、法人スポンサーサービスの向上、会員増強に分類され、具体的な施策は27と多岐に亘ります。今年度は第5期中期計画の2年度に当たり、主体として推進されておられる委員会、研究会、担当の理事とも連携をとりながらそれぞれの施策を進めて行くものと認識しています。

現在、当委員会の活動、日本支部の様々な活動について経験豊かな他の理事の方々に教えて頂きながら勉強中です。

折しも今年はPMI日本支部創立20周年で、会員数も4,000名を超えるまでに拡大しています。この節目の年に理事に就任したこともあり、次なる飛躍を願いつつ出来るだけ早く、理事の一人としてPMI日本支部の活動の更なる充実に向けて少しでも貢献し、会員の皆様、法人スポンサーの皆様のお役に立ちたいと考えております。なお、趣味はゴルフと散歩、庭いじりなどです。

皆さまのご協力を宜しくお願い申し上げます。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

【部会紹介シリーズ】 その11

■ リスク・マネジメント研究会

リスク・マネジメント研究会 広報担当 足立 康子

■ はじめに

「リスク・マネジメント研究会」は、2005年に発足し13年目を迎えました。PMI日本支部研究会の中でも老舗と呼ばれる存在となっています。当研究会ではプロジェクトのリスク・マネジメントを中心としながらプログラムやポートフォリオ、組織のリスク・マネジメントなど幅広いリスク・マネジメントに関する研究活動を行っています。

「リスク・マネジメント研究会」のメンバーとして誇れることとしては、

- メンバー数は20名前後で推移しているが、発足当初からのメンバー数名が現役でアクティブに活動している
- 毎年新たなメンバーが加わっている

- 研究会活動のモデルケースとして2013年度に「PMI日本支部優秀賞」受賞した
といったことが挙げられます。

■ 主な研究活動と成果

● PMI日本フォーラムでの研究成果発表

当研究会では2006年度よりほぼ毎年、PMI日本フォーラムで研究成果を発表しています。その発表内容は現在見直しても決して色褪せてはいません。2018年度は「PMBOK®ガイド第6版でリスク・マネジメントはどう変わるのか」、「形骸化しないリスク・マネジメント」の2編を発表予定です。

表1 PMI日本フォーラムにおけるリスクマネジメント研究会の発表一覧（2006年度～）

年度	タイトル	講演者
2006年	プロジェクト・リスク・マネジメントの基礎 ～イノベーションを実現するプロジェクトマネジメントのために	山本和男
	実務におけるリスク・マネジメント ～PMBOKの実務的活用によるリスク・マネジメント力の向上	川村光利
	リスクマネジメントフレームワーク(RMF) ～リスクマネジメントシステム構築のための枠組みと知識体系	河合一夫
2007年	リスク識別の勘所	塩田隆 若山元男
	リスク知識の体系化とその応用	足立康子
	不確実な状況に於けるリスク・マネジメントと意思決定マネジメントの実際	河合一夫
2008年	実践的リスク識別手法 ～リスク認知を考慮したリスク識別手法	河合一夫
	リスク分析の精密さと積極的対応に向けて	若山元男 佐藤季敬 山本和男
	ステップアップ プロジェクト・マネジャー ～プログラムリスクを考える	三田仁 江崎宏至
2009年	ツールを利用したリスクの定量分析と対応計画の見直し	佐藤季敬 若山元男 谷川雅
	プログラムの実践的なリスクマネジメント	河崎三千男 山川吉雄



優秀賞表彰状



トロフィー

■部会紹介シリーズ

年度	タイトル	講演者
2009年	リスクマネジメントと関連テーマとの関係性の考察	岡田清久 河合一夫 足立康子
2010年	実践的リスクマネジメントの技法・ツール・プロセスのガイド	足立康子 桜木康充 広瀬久士
	プログラムリスクマネジメントの実践的手法	河端三千男 山川吉雄 苔米地功
	組織構築運営におけるリスクマネジメント	岡田資司 青山聡
2011年	リスクベースアプローチによる戦略の実現	河合一夫 松吉靖
	プロジェクトにおけるリスク・マネジメント実態調査	河端三千男 佐伯武雄
2012年	IT運用におけるプロジェクトマネジメントとリスクの考え方	河端三千男 山川吉雄
2013年	プロジェクトの現場にリスクマネジメントを定着させるために	足立康子 村山正宗
	PMI新標準におけるPPPのリスクマネジメント	河端三千男
	プロジェクト・リスクのポジティブな影響に関する考察	谷川雅俊

年度	タイトル	講演者
2014年	リスクを取るリスクマネジメント	河端三千男
	リスクマネジメント手法を用いた意思決定の実際	松吉靖
	アジャイルプロジェクトのリスクマネジメント考察	佐伯武雄
	プロジェクト・リスク・マネジメントにおけるリスクの定量的分析に関する一考察	足立康子
2015年	リスクマネジメント ～ユニアデックスのテラリング事例～	佐藤季敬
	パーソナル・プロジェクトにおけるリスク・マネジメントへのアプローチ	山本和男
	リスクモデルとドライバーアプローチによるリスクマネジメントの有効性の考察	足立康子
2016年	デスマーチプロジェクトの対策とリスクマネジメント前半	森 道夫 芳賀 和郎
	デスマーチプロジェクトの対策とリスクマネジメント後半	梅津崇 山本和男
2017年	リスクマネジメントの定量化に向けて	大森修 若山元男
	ハイモーダルIT戦略と次世代リスクマネジメント	足立康子
	リスクマネジメント・プロセスでのイノベティブなツールと技法の活用	弘末太郎 鳥羽弘幸

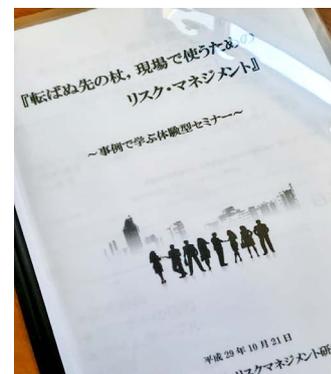
● リスク・マネジメント実態調査の実施

当研究会では2017年度にPMI日本支部会員および、法人スポンサーを対象に、プロジェクトのリスク・マネジメントに関するアンケート調査を実施しました。有効回答数は333件で、その結果は「リスク・マネジメント実態調査 調査報告書」としてまとめました。ご協力いただいたみな様に感謝いたします。

調査報告書はPMI日本支部ホームページに掲載されていますので是非ご覧になってください。

● リスク・マネジメント体験セミナーを毎年開催

当研究会ではワークショップ型の「転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスク・マネジメント」～事例で学ぶ体験セミナー～を年間1回のペースで実施し、講師はメンバーが持ち回りで担当しています。テキストはPMBOK®ガイドをベースとしたメンバーの手作りで、受講者の意見を反映して毎年改訂しています。セミナーでは、受講者同士の会話に参加し、質問を通して対話することによって講師自らもリスク・マネジメントに関する知見を深めています。



■ 研究会活動の活性化の秘訣

● 合宿

ボランティアとして楽しく研究活動を継続するために、リ

■部会紹介シリーズ

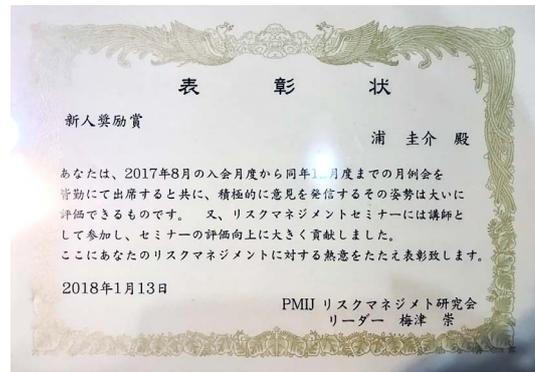
スク・マネジメント研究会では過去さまざまな取り組みをしてきました。

一つ目は恒例となっている秋の合宿で、次年度の活動計画策定や共同研究テーマに関する討議を行っています。楽しみながらまとまった時間をとって集中でき、よい成果を出せる機会となっています。



●表彰制度

二つ目は、各年度に活躍したメンバーへの表彰制度で、月例会への皆勤出席者や、際立った活躍をしたメンバーを表彰しています。頑張っている人を讃えようというとてもよい制度だと自負しています。



●遠足付き忘年会

三つ目は忘年会です。といっても普通の飲み会ではなく大人の遠足付き忘年会としています。

過去の実績としては、お台場、スカイツリー界限、横浜、築地、鎌倉・江ノ島など。リスク・マネジメントについて熱く語り、当該年度の反省と次年度への決意を固めつつリフレッシュできる、一石二鳥のイベントとして定着しています。



■今後の活動

当研究会の新しい試みとして、メンバーの会社組織に訪問してリスク・マネジメントへの取り組みについてインタビューを実施したり、他の研究会とのコラボレーション討議を計画したりと、外部との「つながり」を模索中です。

また2018年度はPMBOK®ガイド第6版が出版され、リスク・マネジメントの知識エリアにも大きな変換の兆しが現れています。第6版の深堀研究も大きなテーマとなることでしょう。

研究会活動は会社組織と違って上下関係の無い、なんでも言い合える自由な雰囲気が魅力です。定例会は第1金曜日(19:00～21:00)に開催しています。ご興味のある方は是非お気軽にいらしてみてください。

■部会紹介シリーズ

【部会紹介シリーズ】その12

■PM ツール研究会

PM ツール研究会 代表 野村 和哉

1. PM ツール研究会とは

PMBOK®には、多くの「ツールと技法」が載っています。PMBOK®を勉強すると、たとえば、プロジェクト憲章の作成では「ビジネス・ケース」をインプットにして、「ブレインストーミング」や「ファシリテーション」というツールと技法を使ってプロジェクト憲章を書きなさいとされていることがわかります。PMBOK®を知っている人なら、ツールの名称は言えるでしょう。しかし、実際のプロジェクトで活用しようとする、それだけでは不十分です。そのような時に、上手く使うためのノウハウを知りたくありませんか？

PMツール研究会では、このような「ツールと技法」について、メンバーが知恵と経験を出し合い、プロジェクトを上手く推進する実践的なツール使用法を研究しています。

2. 会の歩み（沿革）

(1) 始まりは3冊の本から

この会は、「プロジェクトマネジメント・ツールボックス：鹿島出版会」（図1）を翻訳された方々が2008年に主催した勉強会に端を発しています。

勉強会に参加したメンバーが、より日本の実践知を集めて新たに出版したいと考えました。その執筆が始まった2009年当時、PMI日本支部では「戦略的PMO 新しいプロジェクトマネジメント経営：オーム社」（図2）が出版されたところでしたので、PMOについてはこの本を参照することを前提に、新たにPMのための実践値として完成させました。

それが、「PMツールの実践的活用 さまざまな課題に挑戦するPMたち：鹿島出版会」です。この本では、「工場の移転」プログラムに係る「経営改革プロジェクト」や「IT開発プロジェ

クト」など関連する5つのプロジェクトのリーダーたちが協働して困難に立ち向かうというケース・スタディ形式で実践的ノウハウを学べるように書かれています。もちろん、「戦略的PMO 新しいプロジェクトマネジメント経営」で活躍した登場人物もここで再登場しています。

図3



(2) 「テーラリング」を「ペルソナ」を使って

本の出版後、その趣旨を継続し、2011年にPMツール研究会が発足しました。

最初に取り組んだテーマは、「テーラリング」でした。PMBOK®では、各プロジェクトへPMBOK®を適用するときに「ツールと技法」を選択しプロジェクトに合わせることをテーラリングと言っています。しかし、プロジェクトは一品一様なので、それに当てはめることが難しいという実状がありました。使い方は、プロジェクトの特性で変わると考えて研究を開始しましたが、メンバーの知見を集めると、プロジェクト・メンバーや関係者のリテラシーとモチベーションに大きく依存することが分かってきました。そこで、プロジェクト関係者を「簡易ペルソナ」という方法で可視化し、テーラリングする手順を作成しました。この方法は、2014年に「PM ツール開発方法の研究報告書 v1.0」、「PM ツール・テーラリング手順書 v1.0」として、PMI日本支部のホームページで公開しました（図4）。

https://www.pmi-japan.org/member/activity_rept/

(3) 「アジャイル」を「ビジネスモデル・キャンバス (BMC)」で

2012年頃から、メンバーはアジャイルプロジェクトに参加することが多くなってきました。アジャイルプロジェクトでは、要件定義より先に動くプログラムを開発します。そのため、ビジネスとして必要な要求があいまいなまま、開発に着手してしまい、プログラムは作ったが、使えないシステム

図1



図2



Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■部会紹介シリーズ

図4 ペルソナ記述シート

【目的設定プロセス】	情報を共有する人（「現場」に属する人）それぞれをイメージしペルソナを言 言します（一人ではありません）。
【現場】の名前	「現場」に属する人（ペルソナ） ※ペルソナ名を記述
プロジェクト	PM
プロジェクト	作業担当者 A
営業部門	担当営業 A
営業部門	担当営業部長 A
技術部門	作業担当者 A の上司（課長）
技術部門	担当技術部長 A
【現状把握プロセス】	現状把握で設定した問題点あるいは課題から、ペルソナの人物像に辿り、課 題が発生している原因をもとにペルソナの人物像を確定する。
宣言したペルソナ名	「現場」に属する人（ペルソナ）の人物像
PM	口頭説明が苦手。現状把握と現場作業担当者へのフォローは問題ない。お 客さまご担当者への説明も問題なし。
作業担当者 A	作業は手順にそって実施し、その精度についても問題なし。ただし日報を上げ ることは苦手（書くことが苦手）。したがって、報告はすべて口頭であり、後で 「まだ作業が残っていました」と PM に報告することもしばしばある。
担当営業 A	プロジェクトは現場に任せられ、既に他案件を掘り起こし中。課題のみ確認 している。週次定例に参加する程度。
担当営業部長 A	コストへの影響とお客さま心を気にしており、遅れについて報告されても判 断できないと、不満を抱えている。
作業担当者 A の上司	作業担当者 A から口頭報告をもらっているものの、技術的な課題が発生し ない限り、「すべて順調」と報告されるので、プロジェクトへの影響が判断でき ない。
担当技術部長 A	担当営業部長 A と同じく、コストへの影響のみ意識している。

を開発してしまう事態が散見されました。それに対して我々は、アジャイルプロジェクトの外側に、ビジネス要求を可視化し共有する、ビジネスモデル・キャンバスを活用することを検討してきました。ビジネスモデル・キャンバスとは、「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」という本で紹介された、アレックス・オスターワルダー氏などが中心となって開発されたビジネスモデルを可視化するテンプレートです。メンバーの一人が、アジャイルでビジネスモデル・キャンバスをプロジェクト憲章として活用したら、有効だったということを紹介したことがきっかけで、本格的

に検討することになりました。

この成果は、2017年度PMI日本支部日本フォーラムで報告しました。我々が提案するビジネスモデル・キャンバスのテンプレートは図5をご参照下さい。近日、PMI日本支部のホームページでも公開できるように準備中です。

(4) 持続可能なプロジェクト・ビジネスは「メンバーが幸福でこそ」で良くなる

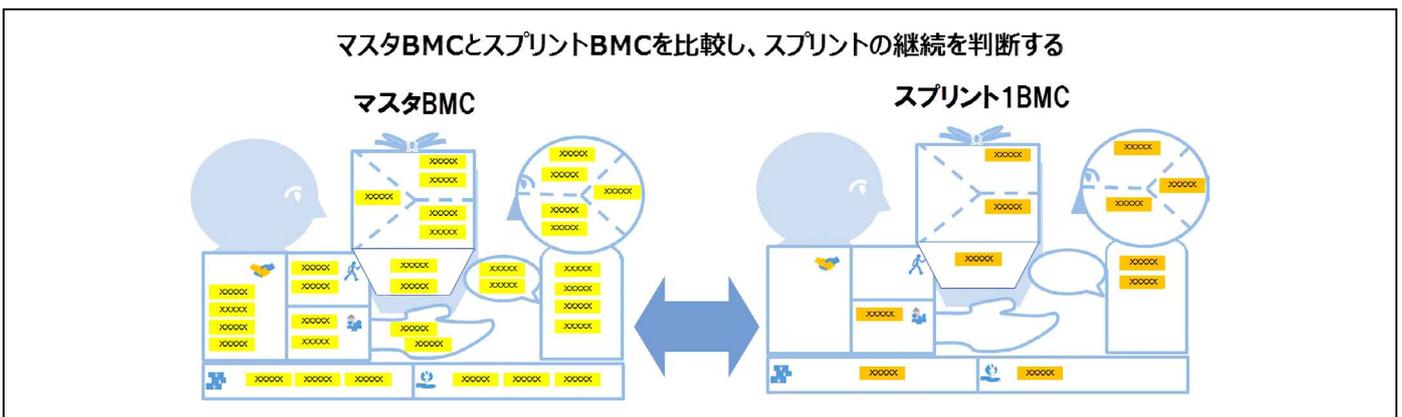
現在は、プロジェクト・メンバーの幸せにつながるマネジメントをテーマに活動しています。プロジェクトが成功してもメンバーが幸せにならないのなら、モチベーションは低下し仕事の質も低下し、次のプロジェクトでは良い仕事が出来なくなります。プロジェクトを「継続したビジネス」と捉えると、メンバーのモチベーション低下は、ビジネス継続上の大きな問題と言えるでしょう。

全てのプロジェクトとは言いませんが、無視できないほど多くのプロジェクトが、メンバーを不幸にして成り立っているのではないかと、みんなで話し合いました。そして、プロジェクト・メンバーを幸せにする「ツールと技法（図6）」

図6



図5 スプリント振り返り時にマスタBMCとスプリントBMCを比較



■部会紹介シリーズ

を2018年度の日本フォーラムで発表しようと鋭意準備中ですので、ご期待下さい。

3. おわりに

PMツール研究会は、メンバーの知見を持ち寄って、わいわい討議することが特徴です。いろいろな会社から、いろいろな立場の方々が集まっていますので、一つのテーマを多角的に見ることができて、とても勉強になっています。

テーマは、みなさんが持っている「問題意識」や、街で気

付いた新しい「ツールや技法」を雑談の中で紹介したりすることから始まっていることが多いのも特徴です。

誰かの小さな発見に、みんなで足し算しながら、知見を広げる活動をこれからも続けて行こうと考えています。

当会への参加をお待ちしています！

- 体験参加・入会希望者は、事務局までご連絡下さい
部会活動参加申込み：bukai-sanka@pmi-japan.org

【部会紹介シリーズ】その13

■アジャイルプロジェクトマネジメント研究会

アジャイルプロジェクトマネジメント研究会 代表 渡会 健

■はじめに ～部会発足とこれまでの経緯～

アジャイルプロジェクトマネジメント研究会は、PMI日本支部の部会としては、現時点で唯一「アジャイル」を冠した研究会です。

2013年2月に「アジャイルプロジェクトマネジメント研究会 準備プロジェクト」として活動を開始し、2015年からは正規の研究会として活動しており、足かけ5年が経過しています。現在では約30名が所属しています。

部会立ち上げ当初（準備プロジェクト時期）は、どちらかというと「アジャイルってどんなものだろう？」ということからアジャイルを学びたいという志向が強く、アジャイルに関する英文書籍の読書会や、PMIのアジャイル系資格であるPMI-ACPの勉強会、事例研究などの活動が中心でした。また、企業側が現在アジャイルをどう捉えているか等の情報を収集し議論するために、法人スポンサー企業さまに伺ってアジャイルの議論をする「イベントキャラバン」という活動も行っていました。

活動内容の転機となったのが、2015年の研究会正規発足の頃で、日本におけるアジャイルの実態について情報を集めたいという思いから、アジャイルプロジェクトマネジメント意識調査を開始し、PMI日本フォーラムにて発表、さらに

PMI日本支部ホームページにてその結果を公開させていただきました。この活動はその後にも継続しており、既に2015年版、2016年版、2017年版がHPにて公開されています。2018年度もPMI日本フォーラムにて発表する予定です。

このアンケート結果の分析を通じて、単なる情報収集・事例研究ではなく、自ら保持しているデータに基づきアジャイルに関して部会内で議論でき、そこで得た知見や提言を発信するようになってきました。これまでの情報収集・事例研究中心から、情報の分析と積極的な発信へと徐々に軸足を移していったのです。

当研究会では、今後もアジャイルプロジェクトマネジメントの発展、展開、情報発信を行うため、これまで以上に活発に活動していきます。

また、ソフトウェア開発のアジャイルプロジェクトに限らず、より広い範囲のビジネス活動や社会活動における、組織のアジリティ（俊敏性）と組織の生み出すバリューを高めるアジャイルプロジェクトマネジメントを追及していきます。

■現在の活動方針

- グローバルでプロジェクトマネジメントをリードするPMIおよびPMI日本支部の立場で、アジャイルの普及、啓発を行います。

■部会紹介シリーズ

- アジャイルの最も基本となるアジャイルマニフェスト（アジャイルの価値と原則）の考えに基づき、PMBOK®ガイドとアジャイルの関連性を重視し、議論や情報収集を行い、研鑽します。
- 外部関連団体とも連携を図り、PMI内外に対して積極的に情報発信を行います。

■現在の主な活動内容

以下のように多彩な活動を行っています。

- アジャイルプロジェクトマネジメントに関する議論と情報交換
 - ⇒ 定例会（毎月第三木曜日 19:00～21:00）@ PMI日本支部
 - ⇒ Facebook グループ
- アジャイルに関する勉強会などの実施
 - ⇒ PMI-ACP®勉強会（2014年から継続実施中）
https://www.pmi-japan.org/news/info/2018_02_05_pmiacp2018.php
 - ⇒ アジャイル実務ガイド勉強会
- アジャイルに関する意識調査（アンケート）の実施・分析・提言（2015年度から継続）
 - ⇒ PMI日本フォーラムでの発表
 - ⇒ PMI日本支部ホームページでの公開
https://www.pmi-japan.org/topics/lcop/agilepm_20171204.php
- PMI日本支部内でのアジャイルに関する連携
 - ⇒ 法人スポンサー連絡会での講演（2015年、2017年）
 - ⇒ 地域セミナーでの講演（2017年全国10か所開催：ニューズレターVol.73）
 - ⇒ PMO研究会との連携

- 外部団体との連携
 - ⇒ 独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）
各種インタビュー対応、ITSS+（プラス）アジャイル領域の策定支援
 - ⇒ 一般社団法人 情報サービス産業協会（JISA）
意識調査（アンケート）についての意見交換
- 外部イベント等への積極参加
（Agile Japan、Regional SCRUM Gathering Tokyo等）
- 法人スポンサー企業さまからの個別依頼による講演

■おわりに

昨秋、PMBOK®ガイド 第6版が発刊され、その中でアジャイルに対する補足が多数追記されています。また、アジャイル実務ガイドもセットで同時発刊されており、PMIがグローバルの立場でもアジャイルに強く着目している証と言えます。

そもそもPMBOK®ガイドはウォーターフォール（予測型）開発専用の考え方ではなく、アジャイルをはじめとするさまざまな開発手法に捉われない、プロジェクトマネジメント全般の知識体系です。

これらの背景を踏まえ、私たちアジャイルプロジェクトマネジメント研究会は今後もさらに発信にも力を入れながら活動を続けて行きます。

メンバーは通年募集していますので、ご興味のある方はぜひ一緒に活動してみませんか？ 研究会詳細や参加についての案内は以下のリンク先をご覧ください。

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/agile_pm.php



PMI-ACP®勉強会



2017年10月 奈良県生駒市でのアジャイルセミナー

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■ 株式会社インテージテクノスフィア

インテージテクノスフィアは、マーケティングリサーチ業界アジアNo.1、世界ランク9位*のインテージグループにおいて、IT事業を担っている企業です。リサーチシステムの開発を通じてデータハンドリングのスキルを高め、多種多様な業界のお客様へのソリューション提供を通じて業界・業務知識を深めてまいりました。



ビッグデータと呼ばれる以前から、膨大なデータを収集・分析するITシステムの構築を積み重ねてきた経験に基づき、社員全員がデータの価値を高める洞察力や発想力を培っています。昨年のビッグデータが今年ではミディアムデータと呼ばれし現代。インテージテクノスフィアは新しい技術の取り込みとデータに対する「知」をもって、「データ活用」における新たな価値の創出に邁進しています。

* Marketing News誌（アメリカマーケティング協会）／October 2017より

1. 企業概要

【知る、つなぐ、未来を拓く— Know today, power tomorrow】

創立55周年を機に刷新されたインテージグループウェイ。このビジョンの下、インテージテクノスフィアもお客様の、そして社会の可能性を広げ、持続可能な発展に寄与してまいります。

インテージテクノスフィアはインテージグループのビジネスドメインのひとつ、ビジネスインテリジェンス事業を担っています。先端テクノロジーに基づくITを駆使し、システム開発技術や業界専門性に裏付けられた独自のシステムサービスを、インテージグループ各社に留まらず、多くのお客様へ提供しています。ソフトウェアの開発・販売から、システムの運用、インテージグループが開発しているさまざまなソリューション維持・管理、データセンター運用などシステムの構築・運用による業務プロセス改善の支援だけでなく、顧客の業務にかかわる膨大なデータの評価や分析およびそれらを基にしたソリューションの提供など、経営戦略的な側面への支援まで、幅広いサービスを展開しています。

インテージグループの2018年3月期の連結売上高は504億円（前期比5.2%増）。25期連続の増収を達成しています。2014年に株式会社インテージのテクノロジー本部が独立し、株式会社インテージ長野と事業統合し発足したインテージテクノスフィアも、設立以来順調に売上を伸ばし、2018年3月期売上高は105億円。従業員数も、488名（2018年4月

1日時点）となりました。インテージグループの成長を牽引する柱として成長を続けています。

2. 事業内容

インテージテクノスフィアは、製薬、ヘルスケア、旅行、出版・図書、流通・小売など、多様な業界のお客様とインテージグループ発足以来50年以上に渡り、ビジネスパートナーとしてお客様ニーズにこたえるシステムソリューションをご提供しています。

また昨今、大きな期待と注目を集めている人工知能（AI）についてもその活用の可能性を模索しつづけています。人工知能情報処理技術の中でも世界的に注目を集めている、ディープラーニングをはじめとするデータサイエンス領域の研究開発に注力し、お客様のビジネスへのAI適用をサポートしています。

■ 卓越したデータハンドリングスキル

長年に渡って様々なデータをその収集から分析まで全プロセスにおいて取り扱ってまいりました。クレンジング加工などデータを活用するための様々な経験やノウハウが蓄積されています。

■ 確かな技術力に裏付けされたITスキル

業界固有のシステムから各種プラットフォームまで、システム・ネットワーク・インフラの企画開発から運用までワンストップで対応できる総合力を備えています。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■株式会社インテージテクノスフィア



■ 予測・最適化モデル構築力

データに関するプロフェッショナル集団ならではの視点やノウハウに裏付けされた予測・最適化モデルを構築し、様々な業務システムに組み込みます。

■ 人工知能のビジネス活用

機械学習、Deep Learningなど人工知能情報処理技術の活用に注力しています。お客様のビジネス課題に対しAI適用のためのコンサルティングからシステム構築・運用までワンストップで対応しています。

■ 正確で柔軟な業務運用

お客様の業務の効率化や情報ガバナンスの強化を支援いたします。アウトソーシングサービスとしてお客様の業務を請

け負い、セキュリティと品質を確保し、かつコストを低減化させる、正確で柔軟な業務運用を受託しています。

3. PMI日本支部に期待すること

プロジェクトマネージャー育成に向けた教育研修の内製化を契機に、法人スポンサーに加入いたしました。各種イベント・セミナーを活用させていただくことはもちろんですが、法人スポンサー間の交流の機会を活用させていただきたいと思っております。また、インテージテクノスフィアは、設立以来、定量的な指標に基づく人財育成を実施しています。プロジェクトマネジメント教育における各種アセスメントツールの開発、及び普及にも期待しています。

Activities / 支部活動

■ PMI日本支部創立20周年記念セミナー開催報告

PMI日本支部 理事 森田 公至

PMI日本支部は2018年1月16日で創立20周年を迎えました。

プロジェクト・マネジメントの価値を再認識する意味も込めて、『新しい潮流へのチャレンジ ～境界を越えて～』と題した記念セミナーを、2018年5月20日(日)に学術総合センター 一橋講堂にて開催いたしました。



当記念セミナーは、PMI日本支部会員・PMI本部会員に限定せず、非会員のみならず、日本国内の36,000名余のPMPホルダーの方々にも無料でご参加いただけるよう企画しました。その結果、PMI日本支部公式ホームページにてオンライン受付を開始してから数日で定員に達し、多くの皆さまにご興味、ご関心を持っていただいていることを実感しました。参加者の51%は非会員で占められ、多くの皆さまにPMI活動について広く知っていただける機会となりました。また、参加者の98%はPMPホルダーでした。

今回の記念セミナーでは、今の時代を表す前述の2つのテーマについて、第一線でご活躍されている方をお招きしてご講演をいただきました。参加いただけなかった方々に、以下簡単ですが、ご紹介させていただきます。

まず、開会に先立ち、PMI日本支部会長 奥澤薫より、PMI日本支部（当初は「東京支部」）の成り立ちとPMI日本支部の活動内容、本セミナーのテーマについてお話しさせていただきました。

PMI日本支部は設立当初は少人数からスタートし地道な活動を重ねてきた結果、会員数はこの20年間、順調に増え続けています。

これからのプロジェクト・マネジャーに期待されることと

して、「デジタル社会への対応」や「働き方改革」に先駆けて取り組むことであり、そのための考え方やマインドシップをいかに変えていけるかの重要性について触れました。本記念セミナーでは、そのためのヒントを持ち帰っていただけるよう各分野の専門家をお呼びしたことで、変革の波に乗り遅れることが無いようPMI日本支部としてプロジェクト・マネジャーを引き続き支援していくことを締めくくりに挨拶として述べました。

最初の基調講演として、株式会社NTTデータ 代表取締役社長 岩本敏男様より、テーマ「デジタル時代のプロジェクト・マネジメント」と題してご講演いただきました。NTTデータのこれまでの成長と軌跡をたどりながら、社会のデジタル化が加速していること、テクノロジーがさらなる進化を続け、社会のあらゆる面で恩恵をもたらしている現状を示されました。ビジネスにおいても、これらの要因がさまざまな変貌を起こし、従来の常識では考えられない変化が起り続けており、日々変化を遂げるデジタル時代において、テクノロジーの進化をビジネスにいかにか活かすかが今後のカギを握っています。例えば、今までのデジタル化の主流であったSMACSでは不十分であり、IoTやAIといったテクノロジーを組み合わせた新たな価値を創造していくことが求められています。特に、2020年には非構造化データが爆発的に増加すると想定されており、単なる「Data」からIoTを利用して「Information」に、そしてAIを組み合わせることで感知・意思決定ができる「Intelligence」を生み出していくことが今後のデジタル化社会の重要なポイントとなります。そのような時代の中でプロジェクト・マネジャーに求められるものとは、『自分は今、何をすべきか?』を常に考えて行動し、挑戦し続けることではないか、とのメッセージが投げかけられました。

続いて、麗澤大学経済学部 教授下田健人様より、「プロジェ

■ PMI日本支部創立20周年記念セミナー開催報告



クト・マネジメントと働き方改革」と題してご講演いただきました。現在、国の政策目標に「働き方改革」が掲げられていますが、依然として長時間労働が無くならない現状があります。各企業においては、少子高齢化などの環境変化に対応しながら競争力強化を図っているにも関わらず、この問題は長期化しており解決に至っていません。「労働経済」と「人的資源管理」を専門とされている下田氏は、その理由の一つに、生産性を成果のみによって評価される「エグゼンプト」の考慮がないためと強く主張します。長時間労働を統計的に示す指標として労働時間がありますが、エグゼンプトの労働時間を測る術はなく、長時間労働に関する統計結果の読み解きにはこの点で解釈に注意が必要とのことです。また、IT業界においては、長時間労働を生み出す問題点に「不明確な仕様」、「プロジェクト途中での仕様変更」、「大規模すぎる案件」、「短期間の案件」、「チャレンジングな案件」、「ウォーターフォールモデルに内在する問題」などが主な原因であるとして分析されています。これらの問題を解決するために、仕様変更時のルールをユーザと合意することやRedmineを活用したプロジェクトの見える化などの施策を行っているとの調査結果を得ており、変化の激しい社会環境ではウォーターフォールモデルの限界から、アジャイルモデルで開発を行うなどの対応が求められています。今後の働き方改革をさらに推進するためには、厚生労働省が提唱する「働き方・休み方改善ハンドブック」を活用し、エグゼンプトに配慮した取り組みをトップダウンで進めてほしいとの提案が示されました。

3番目の講演では、PMI日本支部理事 武上弥尋より、テーマ『「成果を生み出す』という仕事、Disruptive era を生き抜くPM力』についてお話しいたしました。新時代でのプ

ロジェクト・マネジャーは、AIや関連技術、データ価値の理解、新ビジネスの立案などのスキルが求められます。AIの開発からみれば、従来のウォーターフォールモデルでの開発とは異なる、「変更は是」を前提としたアジャイルモデルでの開発の有効性が認められてきており、「AIにより新しいことをしたい」というユーザが年々増加している傾向にあります。そこで、AIの開発において特に抑えておくべき3つのポイントについて紹介しました。そのポイントとは、

- ① AIにより得られる顧客のベネフィットを追求し続けること
- ② ベネフィットのロードマップを作成すること
- ③ 定義・実行・維持を繰り返すこと

の3点です。また、成果を生み出し続けるためには、変化は常態として捉え、今までの枠を取り払って柔軟かつ迅速な意思決定が行えるマネジメント力と自律的なチーム作りが不可欠となる点も強調されました。PMI日本支部では、そのような環境を生き抜く力を与えるさまざまなアセットや機会を豊富に提供しており、大いに活用して挑戦してほしいとのメッセージを発信しました。

最後の講演として、トリプル・ウィン・パートナーズ代表 目黒勝道様より、「スターバックスで学んだ真のリーダーシップ～チームのパワーを最大限に発揮させるには～」と題してご講演いただきました。スターバックスコーヒージャパンにて人事開発マネジャーを務められた目黒様によれば、スターバックスのスタッフの強さは、自ら考え、判断し、行動し、お客様に感動体験を提供することにあります。一人ひとりが同じビジョンを持って人と人とのつながりを大切にすることにより、スタッフ自身の士気が高まり、それがお客様へのサービス向上へとつながっています。ここでとても大切なことは、スタッフが高い満足度をもって取り組んでいるかどうかです。スタッフの満足度が低くはお客様の満足度を高めることが難しく、お客様満足度を上げるためにはスタッフの満足度を高めることが重要です。満足度を高める方法として、

- ① 仕事に対する意義を再確認すること（自分の仕事は何をもたらすかを考える。）
- ② 共に働く仲間として認め合うこと（お互いに尊敬と威厳を持ち、存在を認め合う。）
- ③ 目標達成のためのオーナーシップを持つこと（自律したチームとして強みを発揮できる環境を作る。）

が挙げられます。特にチームを束ねるプロジェクト・マネ

■ PMI日本支部創立20周年記念セミナー開催報告

ジャーの立場であるならば、真のリーダーシップを発揮することが求められます。しかしながら、チームパワーを引き出せない多くのプロジェクト・マネジャーにありがちなこととして、ヒト・モノ・カネ・情報をControl（管理）することがリーダーシップであると誤解されています。モノ・カネ・情報はControl（管理）できても、ヒトをControl（管理）して動かすことはできません。真のリーダーシップとは、その言葉通り、ヒトをLead（支援）することを意味します。つまり、チームパワーを最大限に引き出すプロジェクト・マネジャーとは、スタッフの想いを支援し、スタッフの行動をサポートして個の自信、チームの自信へとつなげられる人間であるとのこと。真のリーダーシップを発揮するためのヒントをお話いただきました。

閉会の挨拶として、PMI日本支部副会長 浦田有佳里より、本セミナーの総括と20周年プログラムの概要をご案内しました。また、PMI日本支部のこれまでの活動を振り返ってご紹介させていただき、第一線で活躍されるプロジェクト・マネジャーのみなさまを、PMI日本支部はこれからも引き続き応援し続けることを宣言し、大盛況裡に幕を閉じました。



PMI日本支部の創立20周年を記念して、我々は特別プログラムを立ち上げ、さまざまな記念事業を計画しています。今回の記念セミナーは、その一環で開催した最初の記念イベントにあたります。今後も記念イベントとして、

- 家族で参加できるバーベキュー
 - 20周年記念ゴルフコンペ
 - アクティブメンバーによる記念パーティー
- など、これからも多くのイベントを企画中です。ステークホルダーの皆さまの参加をお待ちしております。

20周年記念セミナーの開催にあたっては、29名のボランティアの方々をはじめ、記念プログラム担当理事、事務局員が一体となり、無事に終わることができました。素晴らしいご講演をいただいた方々、本当にありがとうございました。

PMI日本支部をはじめとしたPMIの活動は、すべてがボランティアに支えられており、会員ならびに法人スポンサー、関係各位の多大なるご協力・ご尽力の上に成り立っています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。引き続き当支部の活動へのご理解と温かいご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

ボランティアとして参加下さったRajeev Supekar様が投稿をお寄せくださいましたので、次頁にご紹介します。



20周年記念イベントに参画いただいたボランティアの方々

■ PMI日本支部創立20周年記念セミナー開催報告

REPORT ON 20th Anniversary of PMI-Japan chapter

■ 「PMI日本支部 創立20周年記念セミナーにボランティアとして参加して」

Rajeev Supekar - P. Eng., PMP, IRC Study Group, Japan Chapter

Project Management Institute - Japan (PMI-J) chapter recently celebrated its 20th anniversary since foundation on 20th May 2018. In fact, this year will see series of events aimed at celebration of the PMI-Japan chapter. Earlier known as PMI - Tokyo during its inception, it evolved into national chapter of PMI with various regional branches like Chubu, Kansai under its umbrella.

When it was decided to celebrate the year 2018 as 20th anniversary year of PMI-Japan foundation, a volunteer committee was established to conduct it along-with directorate of the event itself. Both worked in tandem with PMI-Japan secretariat to see flawless event execution. In volunteer committee were around 20 members from various study groups and committees, bounded by a virtual communication group to put all planning together. Periodic meetings were held to understand the program outline, some of which were supervised by PMI-J secretariat. Along-with the meetings were the formal and later a personal bond of friendship that saw several members network based on their work, hobbies, project management experiences and aspirations.

To showcase the PMI Japan activities so far and its values as well as to invoke interest of the general public about project management, the event on 20th May was kept open to all and saw record registration from the time the event was opened. Web based seat reservations was filled up to its capacity the day it was opened in just a few hours. And in spite of being a public holiday, the event on 20 May 2018 saw a record turnout of close to 400 attendees apart from the seminars speakers and PMI-J directors. The overall

event went all smoothly with several speakers sharing their pie about project management.

https://www.pmi-japan.org/event/open_seminar/other/2018_04_19_20anniv.semi.php

Nevertheless, in keeping with PM methodology, a feedback meeting of volunteers was held on 6th June to discuss the improvement as well as to express the gratitude.

A PMI-Japan chapter logo marked pen was gifted to all attendees of seminar and tie-pin, broach to PMIJ directors and volunteers who had helped conduct the event graciously.

As PMI chapter, right from planning of the event till its execution, it was diligently conducted. My personal take-away was about the communication tool that kept broadcasting at regular intervals about progress of the event. It was not just an email in inbox but a series of threads bound by a subject heading, making the voting, commenting, replying, concluding each topic to its conclusion.

Volunteer committee formed to celebrate the 20th anniversary was a common place for many members to meet and exchange their ideas, planning several activities to come together on diverse topics like Golf, Barbecue, picnic and so many good things. PMI-J secretariat hosted some meetings and some as offsite ones.

A long cherished and enjoyable event for all those involved in it, aptly described by PMI's slogan marked on the wall-banner at PMI Japan secretariat that says it all- "Good things happen when you get involved with PMI!"

■PMI日本フォーラム2018のご案内



一般社団法人PMI日本支部 主催

PMI日本フォーラム2018のご案内

今年も7月14日、15日の両日にわたり「PMI日本フォーラム2018」を開催する運びとなりました。これもひとえに会員各位、法人スポンサー、アカデミックスポンサーならびにフォーラム・スポンサーの皆さま、日ごろPMI日本支部の活動にご賛同いただいている関係諸機関の皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

また、今年がPMI日本支部創立20周年の記念すべき年になります。この20周年に当たって特別のプロジェクトを立ち上げ、様々な記念事業を実施してまいります。今年の日本フォーラムの講演も、10月に開催されるFesta2018と共通テーマで統一し、この20周年を支部会員の皆さまにとって有意義なものとし、次の10周年に向けた発展のジャンピングボードとなるようにしたいと思っております。

さて、2018年は韓国平昌冬季オリンピックで長野オリンピック以来のメダル数を獲得し、日本選手の活躍と、選手層の厚みをもたらした関係者の長年にわたる努力に、感銘を受けました。一方、国際環境は冷戦終結後最も高い緊張に直面しております。特に私たちが暮らしている東アジアはかつてない危機を迎えております。また、経済の世界でも、リーマンショック以来の超金融緩和から、徐々に利上げがされており、経済も新たな転換点を迎えるようとしています。

経済活動を支える技術革新は、IoT、ビッグデータ、AIが三位一体になってますますそのスピードを上げ、Industry 4.0、中国製造2025など、各国で様々な名前で呼ばれる第四次産業革命に本格的に突入しようとしています。人間の仕事はますますコンピュータやロボットに置き換えられ、人間と機械との住み分けが問われる時代に向かっています。実際に、技術がこのまま進展すると、どのような仕事が機械に奪われ、どのような仕事が人間に残されるか、という選択が現実になりつつあります。そのような中で、創造とマネジメントは人間に残された核となる仕事と予想されます。

一方、米国では一昨年、連邦政府の政策をプログラムマネジメントとして捉え、そのための組織・キャリア形成を推進する法案が、上下両院の可決とオバマ前大統領の署名をもって成立しました。米国では既に連邦政府レベルプログラムマネジメントへの取り組みがされています。他方日本では、2020年の東京オリンピックに向けた大規模で複雑なプロジェクトが進行中ですが、そこではますます組織的・体系的・効率的に目標を達成する取り組みが求められています。戦略的目標実現を追い続ける枠組みが望まれています。

このような流れの中で、PMI本部は、急速にコンテンツを整備しています。昨年はPMBOK®ガイド第6版が出版され、日本語版も2月には出荷されました。日本支部ではPMI本部が提供する最新の資産を、会員の皆さまにより早くより広く共有していただくため、タイムリーな翻訳、出版、WEBへの掲載、セミナーの開催を行っています。

今年の日本フォーラムのテーマは「新しい潮流へのチャレンジャー境界を越えて」です。今まさに私たちが直面している新たな潮流に対し、様々な境界の壁を破ってその潮流の先頭を走れるよう、ノウハウ、フレームワークや手法を提供する使命を、PMI日本支部は負っていると思っております。今年もこのテーマについて数々の示唆をいただける方々を講師として招聘いたしました。

最後に、PMI日本支部を含むPMIの活動は全てがボランティアに支えられております。会員ならびに関係各位の一方ならぬ献身に心より感謝いたします。PMI日本支部の活動にご理解と引き続きご支援を賜るようお願い申し上げます。

参加費(税込)

参加要項		参加費			
		PMI日本支部 会員	法人 スポンサー	一般	
セッション	早割り料金	1日参加	17,000円	19,000円	29,000円
		両日参加	24,000円	28,000円	46,000円
	通常料金	1日参加	18,000円	20,000円	30,000円
		両日参加	26,000円	30,000円	48,000円
初日交流会		3,000円	3,000円	3,000円	

申込みに関するお問合せはPMI日本フォーラム受付窓口へ

問合せ先: forum-2018@pmi-japan.org

フォーラム受講申し込みはPMI日本フォーラム2018公式サイトから

(日本語) <https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2018/index.html>(英語) <https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2018/e/index.html>

新しい潮流への チャレンジ —境界を越えて—

■開催日 **2018年7月14日(土)~15日(日)**

受付開始 **9:30 ~ (14, 15日)**

講演 **10:00 ~ 18:15 (14日)**
10:00 ~ 18:00 (15日)

交流会 **18:30 ~ 20:30 (14日のみ)**

※交流会は、PMという同じテーマを抱えた者同士が語り合うことでさまざまなヒントを得ることを目的としています。初めての方も、ぜひご参加ください。

■講演会場 **学術総合センター**

■交流会会場 **如水会館** (学術総合センター隣接)

■同時中継 **基調・招待講演の全セッションを全国に同時中継**

学術総合センター 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 03-4212-6321
 東京メトロ半蔵門線/都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A6, 8, 9出口
 東京メトロ東西線「竹橋」1b出口

- 支部会員の方はお得な支部会員料金でご参加いただけます。この機会に支部への入会をご検討ください。
 - 早期申し込み割引制度
2018年6月15日(金)までに参加費お支払い完了の場合、割引の料金で参加できます。
 - 参加費お支払い後のキャンセルはお受けできません。確実に参加いただけることを確認の上お申し込みください。
 - お申し込みより10営業日までにお支払い未済の場合、断りなくお申し込みを取り消させていただく場合があります。
 - PDU取得(受講証明)は、タレント・トライアングルの各領域でPDUが取得できます。公式サイト「参加要項」をご参照ください。
 - 同時中継での参加も会場に参加された場合と同じPDU受講証明書を発行します。
 - ご注意
 - ① 申し込みは1日単位です。半日単位や1講座のみの申込みはできません。
 - ② 1日目: 13時30分~18時15分、2日目: 10時00分~18時00分は複数トラック方式のプログラムです。
- 受講申込みの際、参加を希望する講演を各時間ごとに選択してください。

Activities / 支部活動

PMI日本フォーラム2018のご案内

プログラム構成
7月14日(土)

PMI日本フォーラム2018

トラック	【メイントラック】		【併設トラック】			
	招待	PFM/PGM/PMO	ソーシャル	PMBOK®/事例・手法	グローバル	アカデミック
9:30 ~	受付開始 (9:30 ~)					
10:00 ~ 10:10	奥澤 薫 PMI日本支部 会長					
10:10 ~ 11:10 (60min)	M-1 Mark A. Langley President and CEO, PMI 「The Future of Project Management」	同時中継	同時中継	同時中継	同時中継	
11:10 ~ 11:20	休憩 (10分)					
11:20 ~ 12:20 (60min)	M-2 神庭弘年 Region 9 Mentor 「破壊的イノベーションとPMロールの変化」	同時中継	同時中継	同時中継	同時中継	
12:20 ~ 13:30	昼 休 み (70分)			ランチ セッション (40分)		ランチ セッション (40分)
13:30 ~ 14:30 (60min)	M-3 笹谷秀光 伊藤園 顧問 「ESG時代におけるSDGs活用による新たな競争戦略」	A-1 中級 林 宏典・遠山文規 PFM/PGM研究会 「努力を成果に：ポートフォリオマネジメント実践上の意義と課題」	B-1 基本 藤井新吾・鬼塚祐代 ソーシャルPM研究会 「パラレルキャリア、セカンドキャリアとしてのソーシャルPM実践事例」	C-1 基本 鈴木安而 標準推進委員会 「PMBOK®ガイド第6版の特徴と正誤表」	D-1 Annie Sheehan PMI Region Mentor, Australia&NZ 「Agile responses to technology disruptions - insights from Australia」	E-1 飯倉美和 日本アイ・ピー・エム 「山口大学を訪問して～10年にわたる実践教育の構成と成果について～」 三枝省三 筑波大学 教授 伊藤 昭孝 筑波大学 特別講師 「地域活性化へのPELの展開」
14:30 ~ 14:45	休憩 (15分)					
14:45 ~ 15:45 (60min)	M-4 清水久三子 例AND create 代表取締役 「人生100年時代に求められる学びかとは？」	M-4 佐藤秀幸 PFM/PGM研究会 「これからの業務改革プロマネに求められる行動とは～高適業のシステム構築事例を通じたプログラムマネジメント実践のツボ～」	A-2 中級 佐分利淳雄・稲葉涼太 ソーシャルPM研究会 「キッズPMクラブは何処に行く？」	B-2 基本 三好 元 PMBOK®セミナープログラム 「PMBOK®ガイド第6版改訂のポイント (PMBOK®セミナープログラム副読本開発)」	C-2 基本 Diepak M. Kasi Rawsome Life 「The Power of Vision」	D-2 伊藤久雅 サレジオ工業高等専門学校 准教授 「サレジオ高等でのプロジェクト活動を通じたグローバル人材育成教育」
15:45 ~ 16:00	休憩 (15分)					
16:00 ~ 17:00 (60min)	M-5 太田裕彦 豊田市長 「持続可能な都市を目指す豊田市の取組み」	A-3 上級 河村智行 PFM/PGM研究会 「ポートフォリオ分析：プロジェクト情報、統計解析を適用して強み・弱みの特定」	B-3 中級 平井 均・高橋正憲 ソーシャルPM研究会 「ソーシャルPM手法によるCSV (共有価値の創造) 実現に向けて」	C-3 中級 野口啓一郎・三浦利義 PMツール研究会 「Evolutional Mutual Appreciation Happinessを実現する教訓・レボジトリツール」	D-3 Alex Urbano President, PMI Sao Paulo Chapter, Brazil Rodrigo Silva Program Director, PMI Sao Paulo Chapter, Brazil 「How to expand your chapter through a governance model to create branches」	E-3 大塚毅彦 沼石工業高等専門学校 教授 「地域との共創によるPBLとグローバル事業～自律・協働・創造性の発展と展開～」
17:00 ~ 17:15	休憩 (15分)					
17:15 ~ 18:15 (60min)	M-6 森 正弥 兼天樹 執行役員兼 兼天樹研究所 代表 「個別化」時代に向けた兼天樹研究所の挑戦」	A-4 中級 佐藤美一 PMO研究会 「日米PMOの違いと、PMOの変遷について」	B-4 中級 武内克則・金田芳博 中部ランチ 地域ソーシャルマネジメント研究会 「子供のしあわせにつなげるプロジェクトマネジメント」	C-4 基本 鬼東孝則 セミナープログラム 「実践ステークホルダーマネジメント (即効裏ワザ編)」	D-4 Wagner Maxen Principal Advisor, United Nations Office for Project Services 「Does your project management methodology make sense to your organisation?」	E-4 小出直史 国立研究開発法人理化学研究所 研究員 「再生医療を取り巻く諸課題と課題解決のための共創戦略」
18:15 ~ 18:30	移 動 (15分)					
18:30 ~ 20:30	ネットワークング (120分)					

7月15日(日)

トラック	【メイントラック】		【併設トラック】			
	招待	EVM/OPM/リスク	PM一般	事例・手法/PM一般	事例・手法	アカデミック/人材育成
9:30 ~	受付開始 (9:30 ~)					
10:00 ~ 11:00 (60min)	M-7 鈴鹿久美子 例InStyle 代表取締役 「会う人すべてがあたなのファンになる『一流の魅せ方』」	F-1 中級 泉澤聖一 iPPM研究会 「EVMとESに適用する統計的分析法と、その戦略的活用」	G-1 中級 藤澤雄二 PM創生研究会 「50歳の私は、『PMBOK®』で転職しました!!!」～ライフシフトのための自己実現プロジェクト～	H-1 中級 冨田 寛 法人スポンサー・PMコミュニティ SG 「PMコミュニティがPMを育てる～懸念されるPMコミュニティのつくりかた～」	J-1 中級 河内美登・河野竹敏 ステークホルダー研究会 「マネジメント型プロジェクトにおけるステークホルダー・マネジメント・ツールと技法」	E-5 白石英才 札幌学院大学 教授 櫻澤智志 札幌学院大学 非常勤講師 「教養科目におけるプロジェクトマネジメント教育導入の試み」 久保裕史 千葉工業大学 教授 「ソサエティ5.0時代の戦略、イノベーションとプロジェクトマネジメント」
11:00 ~ 11:15	休憩 (15分)					
11:15 ~ 12:15 (60min)	M-8 白坂成学 慶応義塾大学大学院 SDM 研究科 教授 「VUCA時代のマネジメント方法論」	F-2 中級 神野和司 関西ランチ 定量的PM事例研究会 「気付きと刺激を与えるEVMの新しい活用提案」	G-2 基本 木村良一 法人スポンサー・ゲームソッドSG 「考えるPMの育て方～ゲームソッドによる新しいアプローチ～」	H-2 中級 川端義典 例アジャイルウェア 代表取締役 CEO 長沢智治 例アジャイルウェア 顧問 「現場にあったプロジェクトマネジメントを探索する。ウォーターフォール or アジャイル」	J-2 中級 村上雅裕 芝浦工業大学 教授 丸山智子 兼天樹大学 専任講師 例天樹大学 特任教授 「産から学への転身について準備の過程～受け入れ大学の立場から、挑戦者の立場から～」	E-6 前田和哉 例トレードクリエイト 事業部長 「組織として価値のある教訓を残していくには何故か? (教育事業者且つ管理者の視点から)」
12:15 ~ 13:15	昼 休 み (60分)					
13:15 ~ 14:15 (60min)	M-9 Stephen Townsend PMI Director for Network Programs 「Perspectives on Organizational Agility」	F-3 中級 河谷谷健一・田島彰二 組織的プロジェクトマネジメント研究会 「変化に強い『アジャイルな組織』になるためのOPM活用」	G-3 基本 末田壮史 翻訳・出版研究会 「知識継承を通してPM標準本の内容を正しく伝える」	H-3 中級 塩田宏治・山口雅和 関西ランチ IT上流工務研究会 「ビジネス IT プロバイダーの精選をする新たなプログラム/プロジェクト・マネジャーの期待と役割」	J-3 基本 谷 徹也 ビジネスアナリシス研究会 「The PMI Guide to Business Analysis」 概略と実務ガイドにおけるスコープモデル技法」	K-1 基本 前田和哉 例トレードクリエイト 事業部長 「組織として価値のある教訓を残していくには何故か? (教育事業者且つ管理者の視点から)」
14:15 ~ 14:30	休憩 (15分)					
14:30 ~ 15:30 (60min)	M-10 白井和康 ビジネスイノベーションハブ 代表取締役 「ジョブ理論によるイノベーションプロセス～予知可能、再現可能、持続可能、拡大可能なイノベーションプロジェクトの推進」	F-4 中級 池田修一・堀尾洋人 組織的プロジェクトマネジメント研究会 「組織におけるチェンジマネジメントの実現」	G-4 中級 山中良文 プロジェクトマネジメント研究会 「ガバナンスとは何か、何のためのガバナンスか」	H-4 中級 橋本欽司 関西ランチ PM実践研究会 「関西ランチ教育プログラムの実践報告」	J-4 基本 大井 悠 例エル・ディー・エス シニアコンサルタント 「アジャイルプロジェクトにおけるビジネスアナリシスの在り方」	K-2 中級 Gary M Nelson・伊藤 衛 教育国際化委員会 「子どもでもPMになれる!」
15:30 ~ 15:45	休憩 (15分)					
15:45 ~ 16:45 (60min)	M-11 井之上 喬 井之上IPRクリエーションズ 代表取締役会長兼CEO 「ステークホルダーマネジメントを成功に導く、プロジェクトマネージャーに求められるパブリック・リレーションズとは?」	F-5 中級 梅津 崇・芳賀和郎 リスクマネジメント研究会 「PMBOK®第6版でリスク・マネジメントはどう変わるのか～そしてその先へ～」	G-5 中級 飯村北海・井野 薫 アジャイルPM研究会 「2018年アジャイルプロジェクトマネジメント意識調査結果と提言」	H-5 中級 金子啓一郎・中村亜子 PMタレントコンピテンシー研究会 「PMコンピテンシーは伸ばせる!～実企業での事例を含む効果的手法の紹介～」	J-5 中級 濱口 要 例アイ・ティ・イノベーション コンサルタント 「OCDを超えたプロジェクトの真の成功をめざして」	K-3 基本 十返文子・加藤裕哉 PM教育研究会 「Learn by Teaching～教えることを通して学ぶことがある～」
16:45 ~ 17:00	休憩 (15分)					
17:00 ~ 18:00 (60min)	M-12 田中 淳 例日経BP 日経 xTECH / 日経コンピュータ シニアエディター 「なぜプロジェクトは失敗するのか?」、調査結果に見る1700プロジェクトの真実」	F-6 中級 浦 圭介 リスクマネジメント研究会 「顕微鏡化しないリスク・マネジメント～現場で使える7つの勘所～」	G-6 中級 関口匡徳・渡会 健 アジャイルPM研究会 「Agile Practice Guideの概要紹介と、PMI-ACPの日本語版開始について」	H-6 中級 渡辺敬文 PMタレントコンピテンシー研究会 「『こうすれば役に立つコンピテンシー・フレームワーク』～PMコンピテンシー開発フレームワーク (PMCDF) 第3版概要～」	J-6 中級 宮原勤治・澤 伸夫 関西ランチ 医療PM研究会 「新しい医療プロジェクトの展開領域」	K-4 中級 片川伸行・鈴木明美 法スポンサー・人材育成SG 「人を動かせる」プロジェクト・マネージャーの育成に向けて」

□: 上級、□: 中級、□: 基本 (講演者による設定)

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中】

■ PMI日本支部関連セミナー

東京

- **プロジェクト・キッズ・アドベンチャー(PKA)著者セミナー**
 - 日時：7月16日(月) 13:30～16:30
 - 場所：社会起業大学 コワーキングスペース
 - PDU発行なし
- **ケースメソッド意見交換会**
 - 日時：7月31日(火) 18:30～21:30
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - PDU発行なし
- **デザイン思考基礎 ～優れた顧客経験(CX)を提供する～**
 - 日時：8月2日(木) 9:30～18:00
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分
- **アジャイル実践 ～知識から実践へ～**
 - 日時：8月7日(火) 9:30～18:00
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分
- **アジャイルプロジェクトマネジメント基礎**
 - 日時：8月21日(火) 9:30～18:00
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分
- **デザイン思考実践(2日間)
～顧客経験(CX)からの革新商品&サービス開発～**
 - 日時：8月30日(木)・31日(金) 9:30～18:00
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 14PDU、ITC実践力ポイント14時間分

名古屋

- **出張、アジャイル実戦お悩み相談室in名古屋**
 - 日時：6月29日(金) 19:00～20:30
 - 場所：愛知県産業労働センター ウインクあいち
 - 1.5PDU
- **中部ランチ主催 特別セミナー
「クレーム発生時のハンドリング術」**
 - 日時：8月22日(水) 19:00～21:00
 - 場所：愛知県産業労働センター ウインクあいち
 - 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

■ PMI日本支部関連イベント

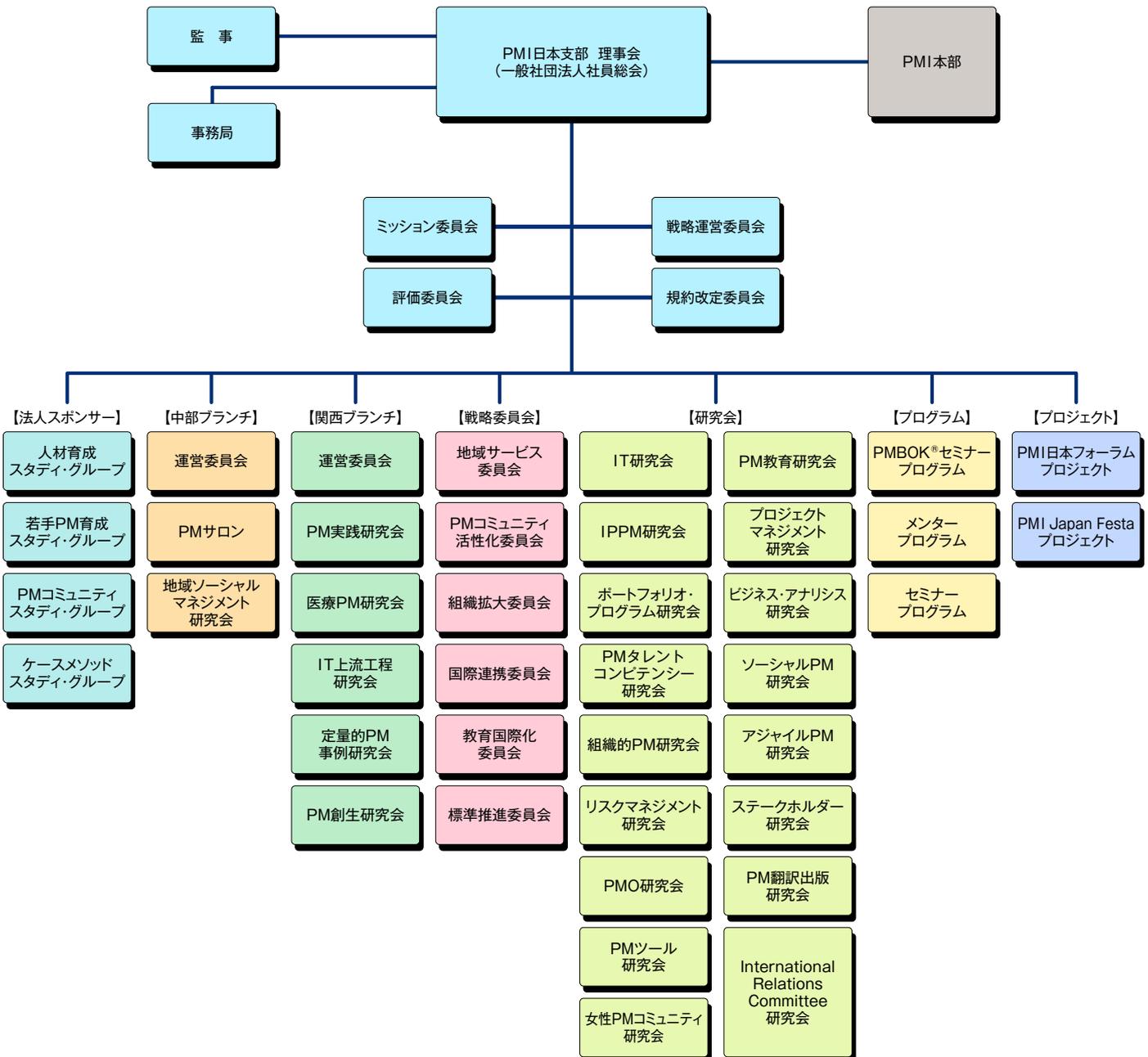
- **PMI日本フォーラム2018**
 - 日時：2017年7月14日(土)・15日(日)
 - 場所：学術総合センター(東京・神保町)
全国向けリモート中継あり(ご家庭で視聴可)
 - 12PDU、ITC実践力ポイント12時間分
- **PMI Japan Festa 2018**
 - 日時：2018年10月13日(土)・14日(日)
 - 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス
 - 9PDU、ITC実践力ポイント9時間分

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2018年6月現在)



■理事一覧 (2018年6月現在)

会長 ^(※)	: 奥澤 薫 (KOLABO)
副会長 (地域サービス委員会 [※])	: 浦田有佳里 (TIS株式会社)
副会長 ^(※)	: 片江有利 (株式会社システムコストマネジメント)
副会長 ^(※)	: 端山 毅 (株式会社NTTデータ)

※規約改定・評価・ミッション・戦略運営の4委員会を兼務

(以下、五十音順)

理事 (組織拡大委員会)	: 麻生重樹 (日本電気株式会社)
理事 (ミッション委員会)	: 池田修一 (株式会社ポジティブ・ラーニング)
理事 (教育国際化委員会)	: 伊藤 衡 (慶応大学大学院)
理事 (教育国際化委員会)	: 井上雅裕 (芝浦工業大学)
理事 (ミッション委員会)	: 岩岡泰夫 (株式会社国際開発センター)
理事 (地域サービス委員会)	: 木南浩司 (株式会社マネジメントソリューションズ)
理事 (組織拡大委員会)	: 斉藤 学 (スカイライト コンサルティング株式会社)
理事 (標準推進委員会)	: 鈴木安而 (PMアソシエイツ株式会社)
理事 (国際連携委員会)	: 武上弥尋 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (標準推進委員会)	: 中嶋秀隆 (プラネット株式会社)
理事 (コミュニティ活性化委員会)	: 福本伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (財政担当)	: 三嶋良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (組織拡大委員会)	: 水井悦子 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (コミュニティ活性化委員会/戦略運営委員会)	: 森田公至 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (教育国際化委員会)	: 除村健俊 (芝浦工業大学)
理事 (組織拡大委員会)	: 渡辺哲也 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
監事	: 神庭弘年 (神庭PM研究所)
監事	: 平石謙治 (ビー・ティー・ジー・インタナショナル)
監事	: 渡辺善子 (株式会社日本政策金融公庫)
顧問 (地域サービス委員会)	: 木下雅裕 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
顧問 (国際連携委員会)	: 杉村宗泰 (日本マイクロソフト株式会社)
顧問 (コミュニティ活性化委員会)	: 高橋正憲 (PMプロ有限会社)

■最新の会員・資格者情報 (2018年4月30日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP [®]		PMI-SP [®]	PMI-RMP [®]	PgMP [®]	PMI-ACP [®]	PfMP [®]	PMI-PBA [®]	CAPM [®]
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
528,053人	4,163人	871,893人	36,723人	4人	7人	5人	40人	3人	6人	120人

■行政スポンサー (2018年6月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (104社、順不同、2018年6月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社ジェーエムエーシステムズ
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ビューレット・パカード株式会社
- 株式会社アイ・ティ・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフト株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレート
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング

- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGST ジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウェア株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & ADシステムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社HS情報システムズ
- 株式会社アジャイルウェア
- ソフトバンク・テクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 関電システムソリューションズ株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社
- 株式会社ネットラーニング
- JFEシステムズ株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (42教育機関、登録順、2018年6月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジ
- メント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
- 岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット (URA)

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 2018年1月に就任した新任理事5名のうちの一人、岩岡泰夫氏からのご挨拶を掲載しました。
- 日本支部の部会活動紹介シリーズは、『リスク・マネジメント研究会』、『PMツール研究会』、『アジャイル プロジェクト マネジメント研究会』の3部会です。
- 「法人スポンサー紹介」は、マーケティングリサーチ業界アジアNo.1、世界ランク9位のインテージグループにおいてIT事業を担っている「株式会社インテージテクノスフィア」さまです。
- PMI日本支部 創立20周年を記念し、「PMI日本フォーラム」に先駆けて5月20日に開催した「創立20周年記念セミナー」について、担当理事の森田公至氏とボランティアとして参加されたラジーブ・スペカル氏からの報告を掲載しました。
- 7月14日・15日に開催する「PMI日本フォーラム2018」が間近に迫りました。今年は大阪・名古屋でのリモート会場は設けない代わりに、基調・招待講演の全てについてインターネットを介して全国向けに同時中継します（PDU発給あり）。東京会場にお越しになれない方は、パソコンやタブレットをご用意の上、是非同時中継システムをご利用ください。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

ニュースレターは、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。お気軽にPMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部ニュースレター Vol.75 2018年6月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局
 〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
 TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833
 E-mail：info@pmi-japan.org
 ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)